

皆さん、こんにちは。山梨予備校校長の斉木邦彦です。日頃より山梨予備校における学習指導に対し、深いご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また本日はたいへん暑い中を大学入試講演会にご参加いただき、ありがとうございます。少々長くなりますが、六分六十秒のメッセージを申し上げます。

少子化と入学定員増により大学は全入時代を迎えたと言われています。しかしこれは全体としての話で、あこがれの大学を目指す一人ひとりの受験生にとっては相変わらずの狭き門です。身の回りに情報が溢れ、受験生の不安や心理的負担はむしろ高まっているようにも感じます。多様化する入試においても基本は大学が求める学力をしっかりと身につけることです。このことを念頭に山梨予備校は適切な情報の提供に努めています。

そう申し上げながら様々な機会に話している余計な情報で恐縮ですが、昔、私は〇〇西高校3年生最後の模擬試験で志望校合格可能性5%未満という成績を頂きました。4.99・・・なら20回受ければ合格、それは今年かもしれないと信じて受験、そして予備校に入学しました。翌年同じ大学を受験して合格しましたが、おそらく合格ラインすれすれだったと思います。

この合格ラインすれすれという思いは、合格してそれでよし、ではなく入学後も本気で頑張らなければ、という、いい意味のプレッシャーを与えてくれました。大学に入った途端に意欲をなくす人もいる中で、真面目にやっていけば勉強についていけないことはないだろう、と考えました。そもそも大学が、この受験生は大丈夫、と判断して合格させてくれたのです。

合格ラインすれすれの合格は、もちろん最初から狙うものではありません。一生懸命頑張って何とか合格、でもこれはすれすれの合格だったかな、と思っても、決して引け目を感じる必要はないということです。結果として合格ラインすれすれに滑り込む、それはそれでありだよねと思えたら、難関のレベルを一つ上げた大学に滑り込める可能性が出てきます。共通テスト後のデータ集計で自分の位置づけが合格ラインに少々届いていなくても、これはチャンスだと思い、こっそり堂々と狙ってみましょう。

合格ラインすれすれでも合格してしまえばこっちのもの、という意識は、自分の背後すれすれのところに合格ラインを背負う構図になりますから、そこに土壇場の底力が思いがけず発揮される絶好の状況です。また合格ラインさえ超えれば、という意識のため、必要以上に焦って気持ちが空回りしたり、少々のことで落ち込んだりすることもなく、終始安定した穏やかな気持ちで勉強に臨めて、案外着実に成績が伸びていくものです。

頑張る、ということの価値は絶大です。苦勞して取り組み、何かを成し遂げた喜び、この喜びは苦勞と感じられる途中の過程にこそあります。数学の問題を解いて、正しい答えが導けたことはうれしいのですが、それ以上に、自分は正しい答えにたどりつけるまで、くじけることなく粘り強く計算を続けられた、このことが何よりうれしいのではないのでしょうか。

受験生としての毎日は、気分の乗る日と乗らない日、勉強が進む日と進まない日があります。あって当然です。その山あり谷ありの日々の全てが受験生の生活です。皆さんがこの先、人生の節目で振り返るたびに自分に生きる勇気を送り返してくれるのは、志望大学の合否の結果ではなくて、そこに至る日々の記憶なのだと思います。この記憶こそが人生なのです。

その意味で、受験勉強は人生における大切な営みである、私はそう信じています。その思いでこれまで高校教員として生徒を励ましてきました。今も予備校で働く機会を与えられてとても幸せです。どんなに私が幸せであろうと、皆さんにはどうでもいいことですが、若い人に対して、私はいつも本音で、言葉を飾ることなく、本心から励ましたいということです。

最後に、勉強の内容について簡単に申し上げます。受験に必要な知識は正しい理解とその積み重ね、そして全体の中での適切な位置づけ、その繰り返しで自然に覚えられるものです。なかなか覚えられないのは、正しく理解しているつもりでいても、どこか自己流に無理して理解したり、適切な位置づけを欠いていたり、そういう部分があるのではないのでしょうか。

受験が終わって具体的なことは忘れても心の中に残るものがあります。万葉集の歌人の心に共感したり、微分積分学を築いた学者を尊敬したり、この共感や尊敬は、大学で万葉集や数学に縁のない分野に進んでも、また卒業後も、私たちが生きていくうえで大切な心です。受験勉強においては、ただ機械的にやみくもに問題に向かうのではなく、時には立ち止まるゆとりを持ち、共感や尊敬などの気持ちの動きを味わってほしいと思います。

メッセージをまとめます。受験勉強はその努力の日々の記憶とその内容と、この両面から生涯、皆さんの人生を支えてくれるとても貴重な経験です。山梨予備校は今後も、大学入試の綿密な分析、教材の更なる工夫を行い、生徒諸君を励ましつつ、丁寧な学習指導に努めて参ります。私たちを頼りにしてください。以上で六分六十秒のメッセージを終わります。本日はよろしく願いいたします。